

平成 28 年度第 2 回博物館懇談会議事録

日時：平成 29 年 2 月 8 日（水） 17 時 30 分～18 時 30 分

3 月 15 日（水） 17 時 30 分～19 時

場所：野田市市民会館 菊の間

出席者：懇談会委員 生田武士（2 月 8 日出席）

宇佐見節子、沼野秀樹、米川幸克（3 月 15 日出席）

郷土博物館館長・関根一男、同学芸員・柏女弘道、寺内健太郎、大貫洋介（書記）

本来、平成 28 年度第 2 回博物館懇談会は平成 29 年 2 月 8 日（水）に開催予定であったが、出席委員が 1 名（生田武士委員）であったため、3 月 15 日（水）に再度開催した。生田委員には 2 月 8 日（水）に市民公募展「集まれ！食の仕事人～見せます、私の仕事道具～」の展示案内を行い、意見交換を行った。

いただいた意見は以下の通り。

・子どもたちに見せるのにはいい展示だと思う。視点によってさまざまに活用できる展示だと感じた。地域を知るという点では小学校 3 年生の授業で使えそうであるし、パネルを読むと、出展者の中には様々な職業を経て今の仕事に就いている方がおり、6 年生のキャリア教育でも活用できそうである。子どもにとって職業は 1 つであり、転職するというイメージが少ない。

・教育バスを確保するため学校では早めに予定をたてる。年間スケジュールなどで展示の内容が早めにわかると学校でも活用しやすいのではないかな。

以上

1 平成 28 年度市民公募展「集まれ！食の仕事人～見せます、私の仕事道具～」について ○寺内学芸員の案内で展示を見学した。

●補足説明及び意見交換

寺内：（資料配布）『ミュゼ』（博物館の業界紙）に展示紹介を掲載させてもらった。今回の展示の主旨や募集、来館者の反応等が掲載されている。

来館者は現時点で 5,804 人、一日平均 96 人となっている。

市民公募展の場合は、出品者によるギャラリートークを行うことが多いが、今回は現役で仕事をされている方が多く、日程の調整が困難であった。そのため、ギャラリートークではなく、寺子屋講座のまちの仕事人講話で 3 名の方にお話をさせていただき、関連事業とした。1 月に行った野田鎌田学園の藤井実さんの寺子屋では、実際に包丁さばきを披露していただいた。2 月はベーグル屋を営んでいる石山奈帆さんに、ベーグルへの思いなどをお話していただいた。3 月は醤油の研究をしていた長原歩さんに、醤油の安全性についてお話いただく。委員：展示が面白かった。今回は出品者としてコメントを書いたが、書いても読まれないの

では、と思っていた。しかし、展示品とのギャップが予想以上に面白く、つい読み込んでしまった。特に導入部に展示されていた計算機の意外性に感心した。導入がよいと他の展示物への関心も高まる。個人的に知り合いも多く、非常に良い展示だと思う。

委員：楽しい展示だった。最初は博物館として展示する題材なのかと思ったが、展示を見て、郷土博物館として人間と道具のドラマを展示するのもありだと思った。以前商店街で店頭で古い道具を展示したことがあったが、古写真等も一緒に展示すると観光の目玉になるのではと思う。出品者の写真もよかった。

関根：出品者の皆さんがすばらしい表情をしてくれた。

寺内：チラシとポスター用の写真については、展示用のものとは別に撮影を行った。

寺内：博物館というとモノだけが展示されているというイメージがあるが、今回の展示では仕事を行っている人を中心に考え、それに付随するものとして道具を展示した。卵の黄身を運搬する入れ物等、普段目にする機会のないものも多かった。

委員：すばらしかった。ただ、福田地区から博物館まで足を運ぶ人は少ない。私もこの懇談会がある時しかこちらに来る機会がない。すばらしい企画なので、子供たちだけでもバスで送迎ができればいいのだが。

寺内：今回の展示はキャリア教育の面でも面白いと評価をいただいたが、学校単位で博物館を見学してもらうためには、かなり早い段階から学校側に打診を行わなければならないという。

委員：最寄のまめバスのバス停はどこか？

関根：仲町バス停が最寄りである。

大貫：最も近いバス停は茨急バスの弁天前である。

委員：子どもたちために直通でバスが出せればよいのだが。このような展示は子どもたちも喜ぶと思う。

関根：上花輪歴史館や茂木本家美術館など、文化施設をめぐるルートがあっても面白いとは思いますが。

柏女：野田市では公共施設見学会という市内の公共施設を巡るイベントは行っているが、上花輪歴史館や茂木本家美術館も公共施設ではないためコースには含まれていない。

委員：コウノトリの里もアクセスしづらい。施設の活性化のために福田の人で店舗を出店したいという話もある。豊岡のコウノトリの郷公園では地元農家による無農薬米を作って販売しているという。コウノトリを地域でうまく活かしていけるとよい。

関根：ドジョウの餌付け等、子ども向けのイベントを開催するのも面白いかもしれない。

委員：市の博物館でこのような企画を行っているところは、他の自治体の館と比べても珍しいと思う。今後とも是非活かしていただきたいと思います。

2 平成 29 年度事業計画について

柏女：次回は市民コレクション展を開催する予定。今年度と同じコレクション展として張子

人形展を開催した。コレクション展はコレクションだけでなく、それらを収集した人を見てもらう展示で、今回は上坂暢一さんと土生谷博之さんのコレクションである鉄道模型を紹介する。コレクターの方によると、鉄道模型の一番の魅力は実際に動くことだそうで、展示でも鉄道模型が実際に走るコーナーを設置する。コレクターにコレクションを語っていただくギャラリートークも計3日間開催する予定である。29年度も展覧会を4回開催する予定である。2回目は市民アート展を開催する予定。布と糸をテーマに、手芸作品等を公募する予定である。特別展は鉄道の歴史をテーマとした展示を行う。東武野田線の歴史を取り上げる。4回目は土器や新収蔵品等を展示する生活文化展を行う。本来は学校向けの展示であったが、見学時期等、学校とのニーズがあっていなかったため、校外学習が行われる時期にずらした。

委員：二ツ塚小学校は教室があまっていると聞いたことがある。地域の人達も農具を寄付していたと思う。

柏女：博物館も空き教室を借用している。昨年、染谷亮作展関係で川間小学校を調査した際、資料を保管している教室の整理も行った。

委員：二ツ塚小学校は空き教室で展示を行っていたと思う。

関根：それは興味深い。博物館でも見に行ったほうがよいかもかもしれない。

委員：昔は小学校で農業体験をやっていたが、最近はやらなくなった。

関根：学校にどのような資料があるか、把握しておくのも大事である。

柏女：学校の空き教室は、生徒数の増減に左右される。

関根：貴重なものがどんどん捨てられてしまっている。

委員：古い農具等は以前はたくさんあったが、不要になりどんどん燃やしてしまった。

大貫：小学校にある資料についても、若い先生方では扱い方がわからず、困っていた様子であった

関根：置いておくとなると管理も大変で、結局廃棄されてしまうことが多いという。

委員：是非頑張ってもらいたい。

関根：市報に資料募集の記事を掲載するというのも手かもしれない。

委員：野田ジャーナルの方が市報よりも効果がある。

柏女：新収蔵品の展示の際に、資料に関する情報提供を呼びかけるパネルも展示している。

委員：チラシは全校に配布しているのか

柏女：学校に送付しているが、全校生徒分は送付していない。図書館・公民館には送付している。

関根：班回覧については。

柏女：チラシの班回覧は地区ごとに仕分ける必要があり、印刷枚数もかなり必要となるため、特別展のみで実施している。

委員：もし呼びかけを行うなら市報くらいの敷居の高さがある方がよい。廃品回収と混同されてしまう恐れもあるし、公的なものである、という点も強調できる。

関根：農家をやめる人からの寄贈依頼を受けるというケースは多い。

委員：是非広めていただければ。

3 その他

懇談会委員 5名のうち、3名が今年度限りで退任する。2名は留任する。